

## 4 保健・福祉・医療について

### (1) 保健・医療対策について

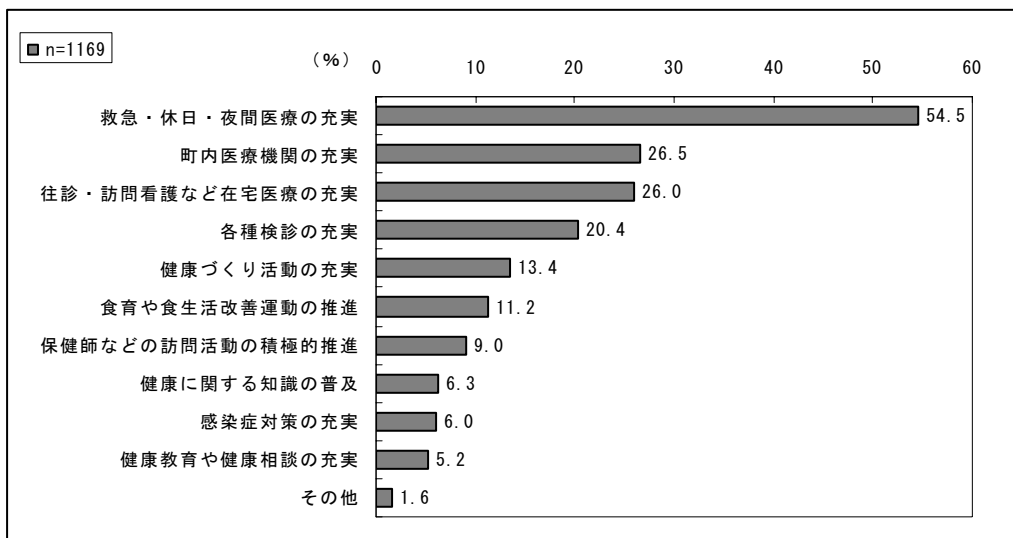
問11 あなたは、町の保健・医療対策について、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。【複数回答】

- 「救急・休日・夜間医療の充実」が他を大きく引き離して第1位。次いで「町内医療機関の充実」、「往診・訪問看護など在宅医療の充実」の順。

保健・医療対策で望むことについてたずねたところ、「救急・休日・夜間医療の充実」(54.5%)が他を大きく引き離して第1位に挙げられ、緊急時の医療体制の整備への要望が強い結果となっている。次いで、「町内医療機関の充実」(26.5%)、「往診・訪問看護など在宅医療の充実」(26.0%)、「各種検診の充実」(20.4%)、「健康づくり活動の充実」(13.4%)などの順となっている。【図表 31 参照】

これを性別・年齢別・居住地区別でも、すべての層で「救急・休日・夜間医療の充実」が第1位に挙げられている。

図表 31 保健・医療対策について（全体／複数回答）



## (2) 子育て環境の充実について

問12 あなたは、町の子育て環境を充実するため、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。【複数回答】

- 「子どもの遊び場など公園の整備」が第1位、次いで「子育て家庭に対する経済的支援の推進」、「相談・学習・交流の場の充実」の順。

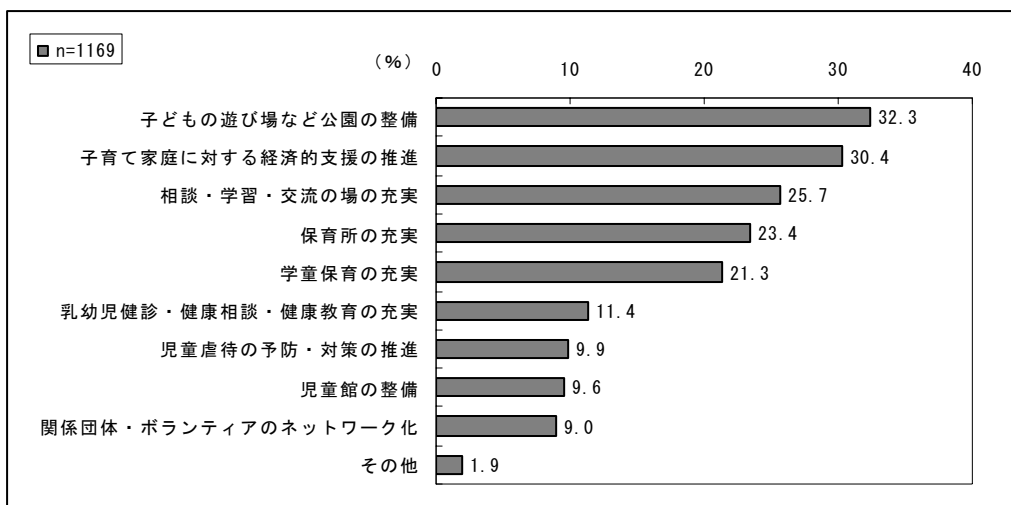
子育て環境の充実のために力をいれるべきことについてたずねたところ、「子どもの遊び場など公園の整備」(32.3%)が第1位に挙げられ、次いで、「子育て家庭に対する経済的支援の推進」(30.4%)、「相談・学習・交流の場の充実」(25.7%)、「保育所の充実」(23.4%)、「学童保育の充実」(21.3%)などの順となっている。

これを、3歳児未満の乳幼児がいる方の傾向をみると、「子育て家庭に対する経済的支援の推進」(45.3%)が第1位に挙げられ、次いで「子どもの遊び場など公園の整備」(37.9%)、「保育所の充実」(34.7%)などの順となっている。

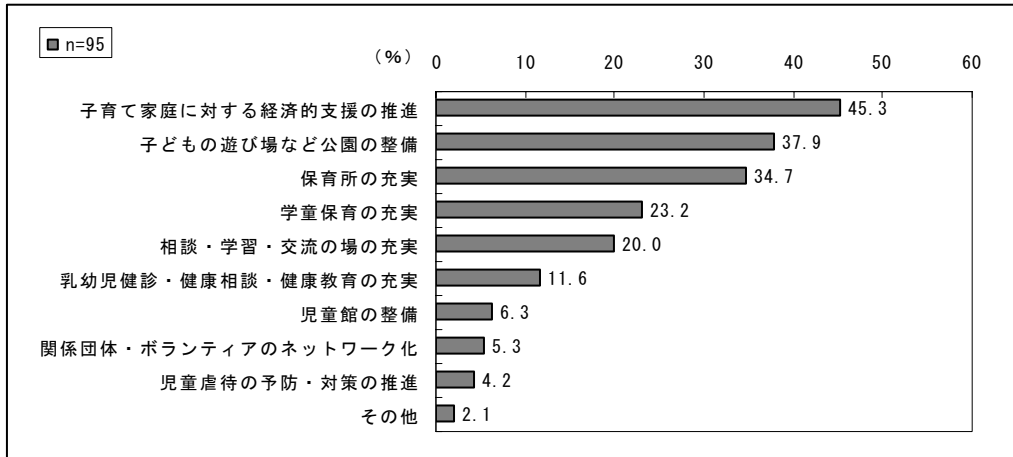
また、幼稚園児・保育園児がいる方の傾向をみると、「子育て家庭に対する経済的支援の推進」(48.0%)が第1位に挙げられ、次いで「子どもの遊び場など公園の整備」(37.3%)、「保育所の充実」(27.5%)などの順となっている。

さらに、小学生・中学生がいる方の傾向をみると、「子どもの遊び場など公園の整備」(44.2%)が第1位に挙げられ、次いで「子育て家庭に対する経済的支援の推進」(37.2%)、「学童保育の充実」(20.8%)などの順となっている。[図表 32～35 参照]

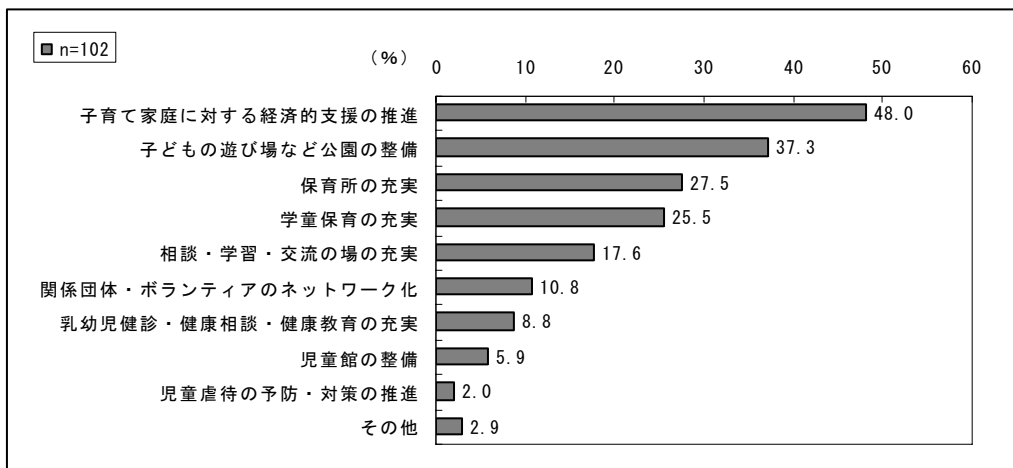
図表 32 子育て環境の充実について（全体／複数回答）



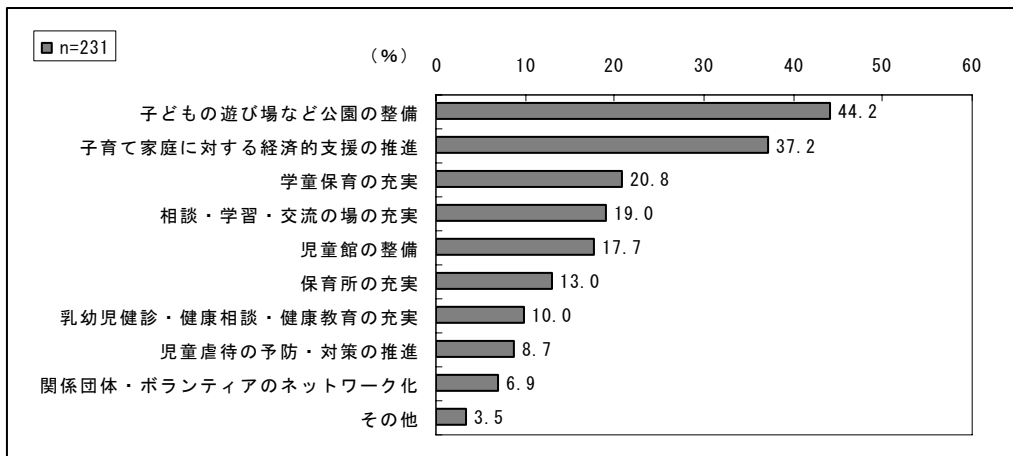
図表 33 子育て環境の充実について（3歳児未満の乳幼児が「いる」／複数回答）



図表 34 子育て環境の充実について（幼稚園児・保育園児が「いる」／複数回答）



図表 35 子育て環境の充実について（小学生・中学生が「いる」／複数回答）



### (3) 高齢者施策について

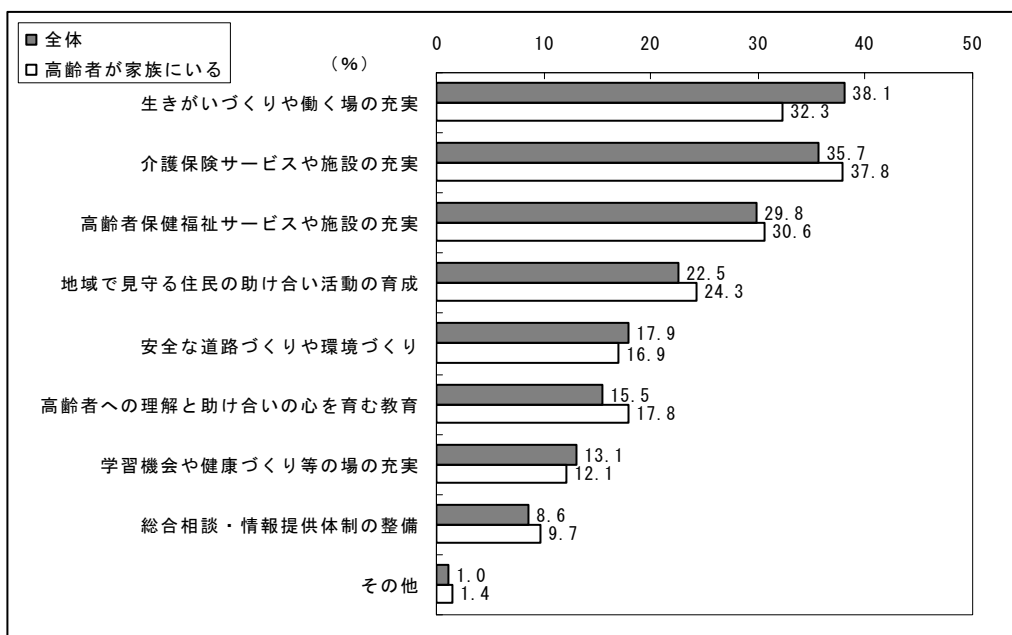
問13 あなたは、町の高齢者施策について、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。【複数回答】

- 「生きがいがづくりや働く場の充実」、「介護保険サービスや施設の充実」が上位を占める。

高齢者が安心して暮らせる社会のために必要なことについてたずねたところ、「生きがいがづくりや働く場の充実」(38.1%)が第1位に挙げられ、次いで、「介護保険サービスや施設の充実」(35.7%)、「高齢者保健福祉サービスや施設の充実」(29.8%)が続き、生きがい対策とともに各種サービスの充実への要望が上位を占めている。その他では「地域で見守る住民の助け合い活動の育成」(22.5%)、「安全な道路づくりや環境づくり」(17.9%)などの順となっている。

これを65歳以上の高齢者が家族に「いる」方の傾向をみると、「介護保険サービスや施設の充実」(37.8%)が第1位に挙げられ、次いで「生きがいがづくりや働く場の充実」(32.3%)、「高齢者保健福祉サービスや施設の充実」(30.6%)の順となっている。【図表 36 参照】

図表 36 高齢者施策について（全体、65歳以上の高齢者が「いる」／複数回答）



#### (4) 身近な移動手段の確保について

問14 現在、町では高齢者タクシー料金助成事業として70歳以上の方に年間30枚の初乗り料金の助成券を交付しています。今後、対象者の急増が予測されています。また、住民の方からコミュニティバスを走らせてほしいという声も以前からありましたが、費用面から2つの事業を行う事は大変難しい状況です。あなたは、今後こうした身近な移動手段の確保に向けた取り組みをどう進めるべきだと思いますか。

● 「コミュニティバスの運行に切り替える」が46.4%、「高齢者タクシー料金助成事業の継続」が22.8%、「費用の少ない方の事業を行う」が18.0%。

移動手段の確保のために必要なことは、「コミュニティバスの運行に切り替える」が46.4%で最も多く、次いで「高齢者タクシー料金助成事業の継続」が22.8%、「費用の少ない方の事業を行う」が18.0%となっている。〔図表37参照〕

年齢別でみると、20代～60代では「コミュニティバスの運行に切り替える」が多数を占めるが、70歳以上で「高齢者タクシー料金助成事業の継続」が最も多い回答となっている。

居住地区別でみると、すべての地区で「コミュニティバスの運行に切り替える」が多数を占め、特に草木小学校区では60.7%と6割を占める。

図表37 身近な移動手段の確保について（全体、年齢、居住地）

